

令和元年度青森商工会議所 経営発達支援計画事業評価書

平成 28 年 4 月 11 日に国の認定を受けた「経営発達支援計画」に基づいて実施した事業について、客観的評価を行うための事業評価委員会(委員 4 名で書面による)を開催し、次年度以降の各事業の見直し等につなげるための評価を行った。

評価基準は、

A⇒目標を達成することができた。

B⇒目標を概ね達成することができた。

C⇒目標を半分程度しか達成することができなかった。

D⇒目標をほとんど達成することができなかった。

目標に対しては、達成度合いでの評価とする。

評価者は、評価委員 4 名

○評価内容の記載してある下記表上段は、A・B・C・Dの内容に基づくもの。下段は、評価者 4 名の内、該当する評価を何人行ったかの人数を記載している。

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| | | | |

令和 2 年 6 月

令和元年度 経営発達支援計画事業評価書（4年目）

青森商工会議所

I. 経営発達支援事業の内容

1. 地域の経済動向調査に関すること

- (1) 経営アンケート調査
- (2) 中小企業景況調査
- (3) LOBO(早期景気観測) 調査

(令和元年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 2 | 2 | | |

(参考 平成30年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 3 | 1 | | |

【評価内容等】

【委員 1】

調査は、計画通り実施され一定の成果をあげているが、調査結果に対する対応策まで言及して欲しい。

【委員 2】

経営課題アンケート調査の回収率について、目標はクリアしているものの 50.9%にとどまっていることから、実施時期や手法等見直しなど回収率が向上するように検討していただきたい

【委員 3】

全ての項目で目標をクリアしていた。(1) アンケート調査を「消費税増税後の影響」というタイムリーな項目で 12 月に実施したのは、アンケートとして効果的であり、回収率も前年度比で 4.4 ポイントアップしていた。興味がある、または事業に影響がある項目であったこともアップした理由にあると思われるため、ネガティブな回答が多かった場合は景気打開策となる施策を早々に実施することを期待したい。(2)、(3) についてはこれまで同様計画に沿って実施されていた。

【委員 4】

今後の施策に活かすべく適切な情報収集活動ができた。

2. 経営状況の分析に関すること【指針①】

- (1) 経営分析のための「窓口相談」、「巡回相談」による小規模事業者の掘り起し
- (2) 経営分析のための「講習会等の開催」による小規模事業者の掘り起し
- (3) 経営分析のための「金融相談会・金融支援」による小規模事業者の掘り起し
- (4) 経営状況の分析

(令和元年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 1 | 3 | | |

(参考 平成30年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 2 | 2 | | |

【評価内容】

【委員 1】

個別企業情報を経営カルテシステムで管理し、経営支援を行う上で、情報共有し活用している態勢は評価できる。

【委員 2】

小規模事業者の掘り起こしはある程度出来ている。引き続き他支援機関とも連携しながら経営分析件数の増加に向け取り組んでほしい。

【委員 3】

(1)～(3) いずれも概ね目標を達成していたが、(4)のみ目標を下回り、さらに前年度の実績も下回っていた。(1)では、窓口・巡回相談ともほぼ目標を達成しているが、経営分析件数が伸びていない。(2)の講習会開催による小規模事業者の掘り起こしは計画通り実施されているため、セミナー受講者に対し、巡回等実施し共に経営分析を実施することで経営状況の見える化にも繋がり、さらに指導員間での情報共有にも繋がるのではないか。

【委員 4】

概ね目標を達成できているが、経営分析件数を一層増やす努力が必要である。

3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】

- (1) 事業計画策定支援
- (2) 小規模事業者経営改善資金融資事業（マル経融資制度）
- (3) 小規模事業者経営発達支援融資事業
- (4) 創業・第二創業支援
- (5) 事業承継支援事業
- (6) 経営安定特別相談事業

(令和元年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 1 | 3 | | |

(参考 平成30年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 2 | 1 | 1 | |

【評価内容】

【委員 1】

マル経融資は大幅に伸びているが、融資後の経営指導等が課題。

【委員 2】

マル経融資の件数や事業承継相談件数は大幅に伸びており、ニーズの高さを認識している。創業・第二創業支援については、スタートアップセンターを有効活用するなど創業者数増加に向けさらに取り組んでいく必要がある。

【委員 3】

項目別に見ると(1)、(3)、(6)等で目標を達成していない。

(1) 事業計画策定件数は目標に達しなかったが年々伸びており、持続化補助金申請支援が伸びているといえる。(2) マル経融資の件数も毎年着実に増加し今年度は初めて目標を達成する起しの成果及び事業者のニーズの高さが伺える。(4) 創業については、重点的に支援しているが会議所での実績のみ件数としているとこのことで目標は下回っているが、あおり地域ビジネス交流センター事業では20件の相談実績があるため、AOMORI STARTUP CENTERにおける実績は出ているといえる。

(5) 事業承継の診断実績が前年までと比較し急激に伸びており、青森県と連携し今後の事業承継に向けた掘り起こしとしても有効であったのではないか。

【委員 4】

マル経融資推薦件数を大幅に伸ばすとともに事業承継支援についても大きな実績をあげた。

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】.

- (1) 事業計画策定後の実施支援
- (2) 小規模事業者経営改善資金融資事業（マル経融資制度）
- (3) 小規模事業者経営発達支援融資事業
- (4) 創業・第二創業支援

(令和元年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| | 4 | | |

(参考 平成30年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 2 | 2 | | |

【評価内容】

【委員 1】

計画策定後のモニタリングや目標管理についての指導が必要。

【委員 2】

マル経融資についてはフォローアップが重要であり、必ずしも件数のみで評価できるものではないが、今後とも着実に実施していただきたい。

【委員 3】

(1) 事業計画策定後の支援については重点的に実施されていることが伺えた。(2) マル経融資制度後の巡回については、目標値、前年度の件数を下回っていたため、年2回の定期巡回を確実に実施していただきたい。(4) 創業者、スクール受講者へのフォローアップ、第二創業者向け支援（第二創業セミナー）については、計画的に実施されていた。

【委員 4】

各事業に係るフォローアップについては、着実に実施されていた。

5. 需要動向調査に関すること【指針③】

- (1) 需要動向調査
- (2) 「日経テレコン」を活用した需要動向調査

(令和元年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| | 2 | 2 | |

(参考 平成30年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| | 4 | | |

【評価内容等】

【委員 1】

KPI（目標達成指標）が必要。

【委員 2】

「日経テレコン」を活用した需要動向調査の実績が0件であり、計画見直し等の検討が必要であると考え。

【委員 3】

(1) 需要動向調査について、展示会後のアンケート調査回数は1回であったが目標を上回る成果を得られていた点は評価出来る。アンケート結果を今後の商品開発、ブラッシュアップに有効に活用してより良い商品開発に繋げていただきたい。

【委員 4】

需要動向調査等堅実にいった。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】

- (1) 販路開拓支援事業
- (2) 「青函パートナーシップ支援事業」による販路開拓
- (3) ザ・ビジネスモールへの登録拡大による販路開拓支援

(令和元年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 2 | |

(参考 平成30年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| | 4 | | |

【評価内容等】

【委員1】

ビジネスモールへの登録拡大によりめざす販路開拓の目標がわからない。

【委員2】

新型コロナウイルスの影響で中止した事業もあるものの、(3)の販路開拓支援については昨年度を大きく上回る実績となっており一定の評価は出来るものと考え

る。

【委員3】

(2) コロナウィルスの影響で青函パートナーシップ支援事業が開催されなかったため、やむを得ない部分もあるが、(1)、(3)トータルでC評価とした。(1)の販路開拓事業は、展示・商談会への出展者は5事業者と少数であったが、有力な商談件数が23件と成果は出ていると考えられる。商談後に商談成立したかどうかの有無、件数についての検証も必要と思われる。(3)登録件数が今年度は大幅に増加しており、今後具体的な販路開拓に繋がることを期待したい。

【委員4】

販路拡大支援等により堅調に実績をあげている。

II. 地域経済の活性化に資する取組

(令和元年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 3 | 1 | | |

(参考 平成30年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 4 | | | |

【評価内容等】

【委員1】

積極的な取り組みにより成果を上げ商工会議所の認知度は上がっている。

【委員2】

各種事業の実施により本市の経済活性化に大きく貢献している。引き続き積極的な事業展開を期待する。

【委員3】

まちなかキャンパスの講座、受講者数、中心市街地活性化事業、商店街活性化事業、あおもりバル街事業は順調に伸びている。トータル12事業を着実に実施している点は大いに評価できるが、一方で事業実施が地域経済にどの程度寄与しているのか別な視点からの評価も必要と考える。

【委員4】

インバウンド対策や産学連携で高い実績をあげている。

III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事
2. 経営指導員等の資質向上等に関する事
3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関する事。

(令和元年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 3 | 1 | | |

(参考 平成30年度)

| A | B | C | D |
|---|---|---|---|
| 3 | 1 | | |

【評価内容等】

【委員1】

他支援機関との連携を通じた支援ノウハウを活用し、特にマル経融資後のモニタリングを強化していただきたい。

【委員2】

各種研修や人材育成など支援力向上のための取り組みがなされており高く評価出来る。引き続き関係機関との連携強化、経営指導員の資質向上に取り組んでいただきたい。

【委員3】

1. 2. 共に着実に実施されており、情報の共有、指導員の資質向上にも取り組んでいる。翌年度は、青森県よろず支援拠点を始めとした他の支援機関との連携により多くの実戦を経験することでさらなる支援ノウハウの習得についても期待したい。

【委員4】

経営指導員等の研修機会の充実に努めた。

【総括的評価内容等】

【委員 1】

令和2年度は、経営発達支援計画の最終年度であり、調査結果を踏まえた施策の実施について達成すべき目標を示唆していただきたい。また、令和2年度はアフターコロナに取り組む必要がある。マル経融資後のモニタリングと経営支援の徹底をお願いしたい。

【委員 2】

目標達成に至っていない項目もあるが、各事業実施により一定の成果があったものと認識している。新型コロナウイルスの影響により今後の目標設定が難しい面もあるものの、特に実績の低い項目については事業内容見直しを行うなど次回の計画策定時に反映させていただきたい。

【委員 3】

青森駅前に移転し、AOMORI STARTUP CENTERでの事業を始め小規模事業者への支援、多様な地域活性化事業を実施する等、地域経済を牽引する役割は担っていると評価される。来年度は新型コロナウイルスの影響がある中での事業実施となるが、計画期間の最終年度であり検証という意味でも着実に事業を実施し、今後の事業のスクラップ&ビルドに向けた年度としていただきたい。一方、消費税増税、新型コロナウイルスによる経済活動の自粛が大きく影響を及ぼすと考えられるため、経営発達支援事業計画に基づく事業実施を原則としながらも、地域小規模事業者が最も必要とするタイムリーな施策・支援を期待したい。

【委員 4】

各指標毎に概ね成果をあげている。今後は、新型コロナウイルス感染症による経済への影響を注意深く把握しつつ、適切に対応していく必要がある。

【改善事項】

- ①経営状況分析のための小規模事業者の掘り起しを積極的に行う。
- ②マル経融資後の経営指導を強化する。
- ③事業計画策定支援を効果的に行うため、各種補助金申請等を積極的に行うとともにそのフォローアップに努める。
- ④日経テレコンを有効活用する方策について再度検討する。
- ⑤展示会等への積極的な参加により参加企業数を増加させる。
- ⑥新型コロナウイルス感染症が与える経済への影響を適切に把握し、施策・支援を行う。

以上